

## 大学の脱炭素化に関する調査ご協力をお願い

2020年6月吉日

貴大学ご担当者様

京都大学佐野亘研究室 脱炭素投資研究会  
パワーシフト・キャンペーン運営委員会

拝啓

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、京都大学佐野亘研究室、脱炭素投資研究会、パワーシフト・キャンペーン運営委員会は下記の通り東京都内の大学を対象として脱炭素化(温暖化対策およびエネルギー対策等)の状況について調査を実施します。ご多忙中大変恐縮ですが、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

敬具

### 記

背景

2019年末ゼロエミッション東京戦略が示され、気候危機への対処(脱炭素化)は急務となっています。大学は大規模なCO2排出事業者であることや教育機関としての重要な拠点であることから、脱炭素化のため重要な役割を担っています。その上で情報公開は大変重要ですので都内全ての大学にご協力をお願いしています。また経費削減や持続可能な経営の観点でも脱炭素化は有効であると考えます。そこで東京都内の大学の脱炭素化の調査を行い、良い取り組みを考察・発信しまた脱炭素化を促進するために企画しました。

調査タイトル：大学の脱炭素化に関する公開質問調査

調査目的：大学での脱炭素化の状況等について質問調査を行い、その状況を可視化することで大学での脱炭素化を促進する。

主催団体：京都大学 佐野亘研究室、脱炭素投資研究会、パワーシフト・キャンペーン運営委員会

協力団体：国際環境 NGO FoE Japan、国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

調査対象：東京都内の国公立私立大学(139学)

調査項目：温暖化対策に関するビジョンの有無および内容、低炭素電力調達の状況、脱炭素投資状況および将来の対策内容など。

調査方法：郵送による調査(ご回答は郵送、メール添付、FAX可)

\*必要に応じて、詳細に関する電話・訪問ヒアリングを実施

調査期間：2020年6月22日～7月下旬 ご回答期限：**2020年7月17日（金）まで**

結果公開方法：報告書を発行し実施団体のウェブサイト等にて、2020年11月頃予定。また、環境省記者クラブや都政記者クラブを中心に、プレスリリースを発行予定。

\*回答いただいた大学にはメールにて報告書を共有いたします。

\*公開不可能な項目がある場合には備考等にてお知らせください。

主催団体紹介：

\*京都大学 佐野亘研究室 <[https://www.h.kyoto-u.ac.jp/academic\\_f/faculty\\_f/311\\_sano\\_w\\_0/](https://www.h.kyoto-u.ac.jp/academic_f/faculty_f/311_sano_w_0/)>  
公共政策・政治について研究を行う。

\*脱炭素投資研究会 <<https://re100researchsociety.jimdofree.com>>  
2050年より早期段階での脱炭素化に沿った責任投資をテーマに、調査研究活動を行う。

\*パワーシフト・キャンペーン運営委員会 <<http://power-shift.org>>  
2015年の3月に全国の環境団体や消費者団体により、再生可能エネルギーの選択を促進することを目指して発足したネットワーク。2019年全国の自治体に再生可能エネルギーの電力調達に関する調査を実施  
(報告書 [http://power-shift.org/jichitai\\_report2019](http://power-shift.org/jichitai_report2019))事務局は国際環境 NGO FoE Japan。

大変ご多忙とは存じますが何卒調査票にご記入の上、

**2020年7月17日（金）までに** 下記まで返信いただきますようお願いいたします。

\*お配りした本調査票は下記からもダウンロード可能です。メール等での回答にご活用ください。  
[http://power-shift.org/tokyo\\_research](http://power-shift.org/tokyo_research) (WORD、PDF 形式)

#### 【回答先】

郵送：〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9  
国際環境 NGO FoE Japan 内 パワーシフト・キャンペーン 宛て  
\*同封の返信用封筒をお使いください  
FAX：03-6909-5986  
メール：[tsukamoto.yuhei.68e@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:tsukamoto.yuhei.68e@st.kyoto-u.ac.jp) (京都大学佐野研究室 塚本悠平)

#### 【お問い合わせ】

国際環境 NGO FoE Japan 内 パワーシフト・キャンペーン 田淵 透  
電話番号：070-2617-4105 (田淵)  
メール：[tsukamoto.yuhei.68e@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:tsukamoto.yuhei.68e@st.kyoto-u.ac.jp) (京都大学佐野研究室 塚本悠平)

## 2020年度 大学の脱炭素化に関する調査【調査票】

\*番号でお答えいただく設問は該当する番号にチェック☑☐を入れ、それ以外の設問はカッコ内にご記入頂きますようお願いいたします。

貴大学名 ( ) 公開  
部署名 ( ) 非公開  
記入者名 ( ) 非公開  
メールアドレス ( ) 非公開

### <基本情報>

Q0. 貴学の基本情報についてご記入ください。

種類 (複数回答可) : 理系 文系 医・薬学系 その他 ( )

学部数 : ( ) 学部

環境系学部の有無 : 有る 無い

キャンパス数 : ( ) キャンパス

学生数 : ( ) 人

メインキャンパスのある市区町村名 ( )

### <ビジョン>

Q1. 大学が温暖化対策をすることを、どのように捉えていますか? (複数回答可)

コスト高 経費削減 学生集めのチャンス 社会的責任、SDGs への貢献  
新たな研究テーマの創出 法律や条例からの要請 特に意識していない  
その他 ( )

Q2. 温室効果ガスの削減について、何らかの長期的なビジョンや目標を持っていますか?

はい いいえ

Q2-1. はいと答えた場合、どのようなビジョンや目標を持っていますか?

長期：
短期：

(\*掲載ウェブページがあれば記載、資料があれば添付ください)

### <学内のガバナンス>

Q3. 大学内での温暖化対策に関して、部門間横断で協議を行う場・会議等がありますか (例: 環境マネジメント推進委員会等)

ある (名称 : ) 把握していない ない

Q3-1. あると回答した場合、その参加主体で当てはまるものを選んでください (複数回答可)

理事長 理事 教員 職員 学生 学外の専門家  
その他 ( )

Q4. 環境報告書や温暖化対策計画書等を作成・公開していますか？

はい いいえ

Q4-1. はいと答えた場合、どの報告書を作成・公表していますか？

環境報告書 その他 ( )

(URL : )

Q4-2. はいと答えた場合、報告書にはどの情報を記載していますか？ (複数回答可)

年間CO2排出量 ( t-CO2、 年度)

CO2排出削減目標 (数値 : %、目標 : 年、基準 : 年)

電力の省エネ目標 (数値 : %、目標 : 年、基準 : 年)

再生可能エネルギー導入目標 : 具体的に教えてください

その他 : 具体的に教えてください

Q5. 学内での温暖化対策において、現在直面している課題は何ですか？ (複数回答可)

予算の確保 人員の不足 専門的な人材の確保 対策に熱心な教職員の不足

話し合いの場がない (環境委員会等)

電気のCO2排出係数の悪化 関連情報の不足 理事会の説得

その他 : 具体的に教えてください

<電力調達について>

Q6. メインキャンパスの直近の契約電力会社について教えてください。(契約が複数に分かれている場合、契約電力量が最も大きいものを記載)

電力会社名 : ( ) 電力プラン名 : ( )

単価 (非公開) : ( 円/kwh) 電力量 : ( kwh/年)

Q6-1. 上記の電力会社と契約した理由を教えてください。(複数回答可)

価格 CO2排出係数 再生可能エネルギーの割合

地元産のエネルギーの割合

電力会社の経営の安定性 (契約中断の懸念など)

その他 ( )

Q6-2. 電力調達に関し策定(予定)している環境方針等あれば教えてください。

<具体的な取り組み>

Q7. どのような温暖化対策を実施していますか？（複数回答可）

- 節電による省エネ  環境建築の導入  排出係数の少ない電力会社選び  
 大学の基金等を用いた ESG 投資  自然エネルギー発電設備の導入  
 グリーン電力証書や炭素クレジットの購入  認証制度の活用（ISO14001 等）  
 その他

Q7-1. 上記で選択した温暖化対策の具体的な内容を教えてください

Q8. 太陽光パネルの設置などの再エネ発電をしていますか。

1. している  2. 計画がある  3. していない、または計画がない

Q8-1. 上記質問で 1 または 2 を選択した場合、再エネの種類や、導入した理由または経緯についてご記入ください。

種類：

理由・経緯：

Q9. 温暖化対策を進めてきて得られたメリットを教えてください。（複数回答可）

- 学生数の増加  大学のイメージアップ  経費削減  温暖化に関する研究の推進  
 メディアへの掲載  大学間の連携が増加  社会的責任、SDGs への貢献  
 その他：具体的に教えてください

<資金運用や管理について>

Q10. 事業報告書や環境報告書等に、環境会計に関して報告していますか？

- はい  いいえ

Q10-1. はいと答えた場合、その理由を教えてください。（複数回答可）

- 法律または条例の規定  社会的責任  環境保全効果の測定  
 費用対効果が高い  ESG 経営の実践  
 その他（ )

Q10-2. はいと答えた場合、環境会計を実施するメリットを教えてください。

Q10-3. 環境会計に関して、どのような条件（タイミングや体制等）が揃えば導入または円滑に実施することができますか？（複数回答可）

- 環境会計に熱心な教職員がいる 外部の専門家からの提言  
関連する法律や条例の改正 経費削減や増益に繋がる  
その他：具体的に教えてください

Q11. 環境投資に関連する取り組みを行なっていますか？

- はい いいえ

Q11-1. はいと答えた場合、どのような取り組みか教えてください(複数回答可)

- ESG 投資 環境賦課金制度 省エネ設備投資 創エネ設備投資  
イニシアティブへの加盟（PRI や TCFD 等）  
その他：具体的に教えてください

Q11-2. 環境投資に取り組む理由やメリットを教えてください。

Q11-3. 環境投資を実施する上で、どのような条件（タイミングや体制等）が揃えば円滑に実施することができますか？（複数回答可）

- 環境投資に熱心な教職員がいる 外部の専門家からの提言  
経費削減や増益に繋がる  
その他：具体的に教えてください

設問は以上です。

<その他>

今後、調達する電力を再エネ等にすることをご検討の場合、弊団体と情報交換希望の方はお知らせください。

希望する

ありがとうございました。